

こうしたことによって、この住宅街は、完全に「我が街」としての領域感を十分に備えることが可能になっている。

また、この袋は、さらに小さな樹木的に枝分かれしたミニ袋状となっており、そのことによって領域感が一層強調されると同時に、コミュニティとしての一層の親和性、相互の自然な監視性の強化にも寄与する仕組みとなっている。

巧妙なことは、この袋を形成するのに、自然な仕組み、必要最低限の工夫によって達成していることである。そのことによって、閉鎖性が強調され圧迫感が生じてくることが回避されている（写真4-1。4-2）。

●アクセスコントロール

袋状街区が形成されることによって、不審者の侵入路は完全にコントロールされている。

それに加え先に見たように家屋間の隙間（犬走り）も完全に遮断されており、家屋からの裏手（死角）からの不審者の接近は不可能となっている。

家屋の裏手の死角に対しては、枝分かれした他の枝の先の袋を構成している家屋から自然の監視できるように工夫されている（写真4-3）。

写真4-3 家の裏手に対する他の袋を構成する家屋からの自然な視線の確保

